

浄土真宗でよかった
いつでもどこでも
抱きしめられている
松岡満優師
群馬県・蓮照寺住職

それなら安心ね

7月の末に、「7年前の今週」という題で、スマートフォンに写真が送られてきました。スマホの機能のひとつに、自分で撮った写真が1年後、2年後と忘れた頃に送られてくるといふものがあります。

「7年前の今週」と題した写真は、花に埋もれた娘の唯の写真でした。棺いっぱいの花の中に眠るように目を閉じて横たわる唯。写真を見て、「教えて貰わなくても、忘れるはずがない。今日も家族で手を合わせてお勤めしたよ」とつぶやきました。

7年前の7月21日午前4時20分、唯は5歳6カ月と2週間の人生を終えました。同時に、生まれた時から付き合ってきた「メチルマロン酸血症」という病気と別れることができず、唯が息を引き取った時、妻は病院に向かっています。2週間後の息子とともに、実家に

帰っていたのです。病室に入るなり、妻は「唯ちゃん、ごめんね。間に合わなかったね」と、ほほ笑みながら涙を流して床に座り込んでしまいました。

「唯が入院する時は、いつも付き添っていたのに。唯が寂しがるから、いつもそばにいたのに。唯はどうして私がいけないところで死んでいかなければならないの？」

そう独り言のようにつぶやく妻に私は「そうかあ、今な、唯が息を引き取った時、唯ちゃん、阿弥陀如来という仏さまが唯ちゃんのことを、しっかりと抱きしめて下さるから心配しなくていいんだよって言っておいたからね」と涙と鼻水で、ぐちゃぐちゃになった顔で、しぼり出すように言いました。

妻は「それなら安心ね」と一瞬、明るい顔になってくれました。

「ご自分で産んだお子さんを亡くされる悲しみは壮絶です。お父さん、どうか奥さんの支えになってあげて下さい」と、医師から病院を出る時に言われました。

妻と唯、そして、生まれたばかりの龍真を車に乗せて自坊へと向かいました。

「支えてあげて下さいと言われても、こっちが崩れ落ちそうだ」と思っていると、妻が「おとうちゃん、浄土真宗でよかったね。お念仏頂いていて良かったね」と、私を励ますように言ってくれました。

支え励まされなければならぬ私に私を励まされ、元気づけられていました。情けなさを感ぜながらも、その言葉は唯がしゃべってくれているようで、車の中の3人が、それを聞かせていただいてる感覚になりました。

「うん、うん」と涙で前が見えなくならないように目をしばたたかせながらうなずくと、妻が「いつか私がお坊さんになることがあったら、法名は釋唯照がいいなあ。いつも唯ちゃんと一緒にいられる気がするから」と続けました。

「唯に照らされ、唯を照らし、唯照らされるか？」

流れる涙を拭いながら、そう考えつつハンドルを握り続けました。

昨年、11月26日に妻が得度式を受けさせて頂きました。本山の閉法会館で待つ私と6歳になった龍真のもとに、度牒を手笑顔で駆け寄って来た妻の顔は輝いて見えました。

「右の者を度して本宗僧侶となし法名釋唯照を授ける」とその文字が見えるようにに度牒を胸の前に持ち、はにかんでほほ笑む妻と龍真の写真がスマホで撮りました。

「度す」とは、「渡す」とです。仏さまが、人々を迷いの此岸から悟りの彼岸へと渡すこと、迷いから救うことです。

親鸞聖人は『教行信証』の最初に「ひそかにおもんみれば、難思の弘誓は難度海を度する大船」(わたしなりに考えてみると、思いはかることのできない阿弥陀仏の本願は、渡ることでできない迷いの海を渡してくださる大きな船である)と記されています。

写真を撮った私は「おめでとう。浄土真宗でよかったですね。お念仏いただいてよかったですね」と妻に言いました。

「それって、ママがおとうちゃんに言った言葉じゃなかったっけ？」という龍真を抱きしめる私の写真を、今度は妻が撮りました。

いつでも、どこでも、どんな時でも抱きしめられている。抱かれてる。阿弥陀さまに。大きいなる他力の中に。

本願寺新報

令和4年8月20日号掲載



今年咲いた蓮の花

築地本願寺の慶賛法要懇志について

春にお願いを致しました、築地本願寺・親鸞聖人お誕生850年、立教開宗800年の慶賛法要懇志でございますが、おかげさまで目標額を達成致いたしました。若干の余裕がありましたので、そちらは教誓寺の教導等の目的に使わせて頂きます。御懇志の御礼として築地本願寺より皆様の分のお扱い(記念品)を頂きましたので7月より教誓寺で配布致します。御懇志を下された方には「引換券」を同封しましたので、お参りの時にお受け取り下さい。ご協力ありがとうございます。

孟蘭盆会法要のご案内

記

孟蘭盆会法要

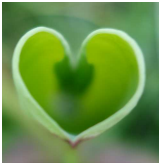
7月7日(日)

午後2時より

お盆の期間

7月13日～16日

教誓寺門信徒皆様の法要です。今年「新盆」を迎える方々の、「新盆法要」を併せてお勤め致します。新盆にあたる方の法名を読み上げてお勤め致しますので、ご関係の方々は是非お参りください。昨年のお盆以降に七七日(四十九日)を迎えた方から、今年のお盆までに七七日(四十九日)を迎える(東京のお盆期間で言いますと、昨年の六月から今年の五月末までにお亡くなりになった)方々が「新盆」にあたります。



秋以降の行事予定

秋のお彼岸

9月19日から25日

22日彼岸会法要

午後2時より

報恩講

10月27日(日)

午後1時より

お花などの手配

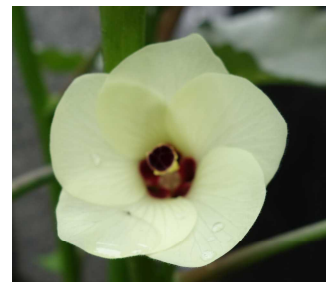
近年、「お寺にお参りに行きたいのに体調が悪くて、お寺まで行くことが出来ないうい。」子や孫に「連れてって」と言いたいのが、言いにくい。というお話を多く聞きます。ご連絡をいただければ、お花とお線香をお供えして、それぞれのお墓のお参りを致します。お花などの実費とお布施をお願い致します。手配の都合もありますので、余裕をもってご依頼下さい。

教誓寺維持費

改定について

本年度も維持費(護持会費)をご進納頂きまことに有り難うございます。平成元年より36年間、改定せずに過ごせてまいりました。6月2日に教誓寺の役員会を開き、維持費の改定が決まりました。

「教誓寺だより」に同封致しました「教誓寺維持費改定のお知らせ」をご覧下さい。このお知らせは、維持費対象外の方にもお配りしてあります。



何の花でしょう

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073
東京都港区三田 一十二十一

〇三(三四五)二三九

kyousei.ji@is4.so-net.ne.jp